

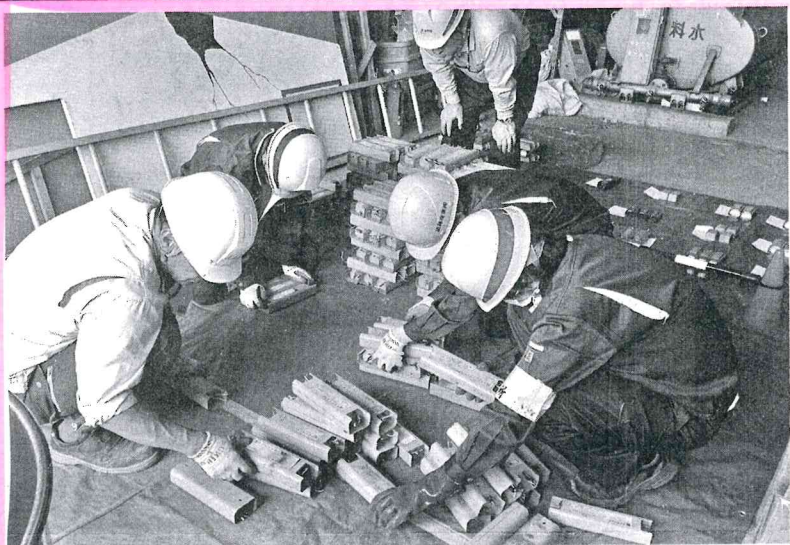
加藤商事

PCB廃棄物処理のトータルサポートを展開する加藤商事(東京都東村山市、加藤宣行社長、042・392・1001)では、PCB含有の安定器を保管している事業者に対して、処理コストを削減するサービスを提供している。

PCB含有の安定器は高濃度PCB廃棄物扱いとなり、その処分は中間貯蔵・安全事

業(JESCO)にて行われるが、1キログラムあたり3万円以上と、他のPCB廃棄物よりも高額な処分費がかかることから、多数保管している事業者は、その処理費の確保に頭を悩ませている。

PCB含有の安定器をJESCOで処理するためには、あらかじめJESCOの指定する方法での荷姿登録を行う必要があるが、加藤商事で



PCB含有と非含有の安定器を選別作業中

PCB廃棄物処理をトータルサポート

含有の有無を判別調査し、大幅にコスト削減
『掘り起こし調査』も本格的に開始

は、荷姿登録を行う作業過程で、保管されている安定器がPCB含有の物か非含有の物かを洗い直す調査を行っている。PCB含有の有無の判別は独自のノウハウによるが、非PCBと選別されたものは必ずメーカーの証明書を発行してもらい事業者へ提出することから、事業者は安心して行政報告の変更をすることができる。

加藤商事では、自治体の他にも大手金融機関や大手保険会社等さまざまな事業所の調査を行ってきたが、これまで調査した廃安定器等は約7万台、処理費削減効果は約6億円の実績となっている。いずれの事業者も荷姿登録にかかるコストにわずかな調査費用を負担するだけで大幅なコストダウン策を図れたことから、同社では「今後PCB含有の安定器を保有している事業者に広くより良いサービスを提供し、事業者のコスト負担軽減を図りたい。また、最近建物内で使用中の安定器からPCBが漏えいする事故が多発していることから、建物内に残されている安定器の『掘り起こし調査』も本格的に開始しており、低濃度PCBの収集運搬と合わせて、さらなるトータルサポートを実施していきたいとしている。